［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　平成２１年2月２４日

【評価実施概要】

事業所番号	０９７２６０００５０		
法人名	社会福私法人　光誠会		
事業所名	ケアハウスフローラ（グループホームフローラ）		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町上柏崎５５１－１ （電話）０２８－６７６－３３００		
評価機関名	特定非営利活動法人　アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町１１８－１８９		
訪問調査日	平成２１年1月２１日	評価確定日	平成２１年2月２４日

【情報提供票より】（平成２０年１２月５日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成11年12月20日		
ユニット数	１ ユニット	利用定員数計	９ 人
職員数	９ 人	常勤　７人，　非常勤　４人，　常勤換算　７.３	

（２）建物概要

建物構造	鉄骨造り ２階建ての１階、２階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	１５，０００　円		その他の経費(月額)	２９，４００ 円
敷　　金	有（３００，０００　円）			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　１５００ 円			

（４）利用者の概要（　平成２０年１２月５日現在　）

利用者人数	８ 名	男性　０ 名	女性　８ 名
要介護１	３ 名	要介護２	０ 名
要介護３	３ 名	要介護４	２ 名
要介護５	０ 名	要支援２	０ 名
年齢	平均　８３ 歳	最低　６７ 歳	最高　９４ 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	高根沢中央病院・加藤歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設10年目を迎えたフローラは実践や経験を積み重ね、「ゆっくり、楽しく」という理念を様々な場面で実現している。月に1度は全員でドライブに行き、花見や紅葉狩り、外食などを楽しんでいるが、職員はイベントに参加する利用者一人ひとりが楽しめるか、その人のペースにあっているかを常に意識して支援している。行事や外出イベントの際には、計画書を作成した上で実施後の総括や反省を記述としてまとめ、次回の取り組みに役立てている。人材育成計画の一環として行われる個人面接では、職員は自分の役割を明確にし、上司は職員に期待する内容を伝えて、職員一人ひとりの具体的な研修目標を立てている。この個人面接は、悩みなどを聞く場にもなり、職員のモチベーションを高め、定着につながっている。介護職の離職が問題となっている現在、この様な取り組みは重要である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価の結果を受け、介護計画の見直しのために家族の意見を聴取する面談時間を設定したことや通院介助の報告を口頭から通院シート記載に変えたことなどの具体的な改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価に職員全員が参加する工夫として、評価項目を職員が分担して受け持ち、各自が考えて記入したものを、管理者、主任、計画作成担当者、介護職員代表の4名が話し合って仕上げる方法に変更した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議はグループホームからの報告やお知らせだけでなく、町や地域の人との情報交換の場になっている。運営推進会議に参加した地域の代表から、「敬老会の開催方法が変わったが、フローラには招待状が届いているか？」と確認する場面もあった。また、運営推進会議に参加している入居者の家族に高根沢町の認知症対策推進懇談会のメンバーになってもらうことが決まり、町の担当者と更なる関係を築くことが期待できる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族への定期的な報告は、個人別の手紙、金銭出納帳の明細、ホーム新聞、通院報告のシート等様々な方法で行われ、面会時や運営推進会議の場で意見等を聞く努力もしているが、苦情はなく、要望や意見も少ない状態である。ホーム側は、これを良しとせず、話しやすい環境を作ることで意見等が出やすくなるように努力する姿勢を示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に参加することで、自治会を通じて地域の情報が入るようになり、自治会の活動にも参加でき、入居者が地域の一員となっている。そのため地域公民館で開催される敬老会にも全員が招待されている。敬老会は公民館祭りを兼ねていて、入居者は歌を披露するなど楽しみにしており、地域の人にグループホームを理解してもらう機会ともなっている。

2． 評 価 結 果 (詳 細)

（灰色）は、重点項目。　　　　取り組みを期待したい項目

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、楽しく、一緒に温もりのある生活を送る」という従来の理念に、昨年「地域との結びつきを大切にし、地域との信頼関係を保ちながら、地域の一員として生活を送る」を加えた。地域の中での生活を明確にし、地域との関係性を徐々に築きあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を確認するために毎日申し送りの時間に唱和しており、理念の言葉から連想し、実践の取り組みの反省のきっかけにしている職員もいる。理念である「ゆっくり、楽しく」は様々な場面で活かされている。例えば、利用者がイベントに参加する場合、その人が楽しめるか、その人のペースにあっているかを職員は常に意識し支援している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加することで、自治会を通じて地域の情報が入るようになり、自治会の活動にも参加でき、入居者が地域の一員となっている。そのため地域公民館で開催される敬老会にも全員が招待されている。敬老会は公民館祭りを兼ねていて、入居者は歌を披露するなど楽しみにしており、地域の人にグループホームを理解してもらう機会ともなっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員が参加する工夫として、評価項目を職員が分担して受け持ち、各自が考えて記入したものを、管理者、主任、計画作成担当者、介護職員代表の4名が話し合って仕上げる方法に変更した。前回の外部評価の結果を受け、介護計画の見直しのために家族の意見を聴取する面談時間を設定したことや通院介助の報告を口頭から通院シート記載に変えたことなどの具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はグループホームからの報告やお知らせだけでなく、町や地域の人との情報交換の場になっている。運営推進会議に参加した地域の代表から、「敬老会の開催方法が変わったが、フローラには招待状が届いているか？」と確認する場面もあった。運営推進会議にはなるべく多くの家族に参加してもらいたいと考えているが、家族の参加が少ないことをホームとしては課題としている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のお知らせを届けることや町の担当者が隣のケアハウス等を訪問した時立ち寄るなど、行き来する関係はできており、町の広報誌でグループホームについてお知らせしてくれたこともあるが、町とともにサービスの質の向上に取り組むまでには至っていない。	○	今回、運営推進会議に参加している入居者の家族に高根沢町の認知症対策推進懇談会のメンバーとなってもらうことが決まり、町の担当者と更なる関係を築くことが期待できる。また、町のケアマネジャー連絡会にグループホームのケアマネジャーが参加することを望んでいるので、町に働き掛けることを試みてはいかがか。
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への定期的な報告は、ホームでの生活の様子、健康の記録、入居者自筆の家族へのメッセージが書かれている個人別の手紙、金銭出納帳の明細、ホーム新聞の他、新たに診療結果報告の通院シートが加わった。職員の異動、外出予定、ホームで力を入れている取り組み等はホーム新聞「ぽっかぽか」で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書等で意見、苦情相談窓口を明確にし、面会時や運営推進会議の場で意見等を聞く努力もしているが、苦情はなく、要望や意見も少ない状態である。ホーム側は、これを良しとせず、話しやすい環境を作ることで意見等が出やすくなるように努力する姿勢を示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員の夜勤時、入居者が寝ないなどの混乱があったが、対応の仕方を変えることで落ち着いた。この様なことも職員の話し合いで解決している。人材育成の方針の下、モチベーションを高めるような面接が行われている。この面接は主任が担当し、悩みなどを聞く場にもなり職員の定着につながっている。退職した職員もその後ホームを訪ねてくれるなど入居者との関係を保っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成計画に従って主任が個人面接を行い、個人の具体的な研修目標を立てている。面接によって、職員は自分の役割を明確にし、上司は職員に期待することを伝えられる。面接の結果を参考に、職員の受けたい研修、受けさせたい研修について、ホーム内研修は主任が担当し、外部研修は管理者が職員派遣の調整などを行っている。研修内容は、職員全員が参加する月1回のミーティングで報告される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県グループホーム協会に加入し、研修会や交流会には参加しているが、身近な所には同業者が少ないので交流する機会が限られている。それでも、他のグループホームを知ることで様々な気づき、発見があることから、積極的な交流を望んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接するケアハウスからの入居者は、入居前に遊びに来ることで慣れてもらっている。平成18年度から始まった短期入所サービスを利用して事前にホームの暮らしを体験してもらうこともできる。入居前の訪問時には、新しく入居する人とすでに入居している人が話しやすいように職員は配慮している。その結果、支障なく溶け込め、ホームの生活を始めることができている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が不快な思いをしないようにミーティングで常に確認している。レクレーション等では入居者と一緒に楽しんでしまうようなかかわり方をすることで喜怒哀楽を共にする場面を作っている。職員と一緒に配膳や食器の片付けを当たり前に行っている入居者の姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である「ゆっくり、楽しく、一緒に温もりのある生活を送る」ことを念頭に、本人の意向を確認している。職員主体で計画しがちなレクレーションに関しても、参加する内容や「参加する・しない」について、一人ひとりの状況を考慮した上で個別の対応をしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月1回開催される全職員が参加する全体ミーティングの中のサービス担当者会議では、職員が生活の支援をしながらくみ取った入居者の思いを持ち寄ることで、様々な提案が出され介護計画に盛り込まれる。例えば、トイレ誘導を工夫してリハビリパンツを利用するのは夜間だけにすることが職員から提案され実行されるなど、本人本位の介護計画となり実効あるものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に6ヶ月毎に見直しているが、介護計画の見直しのために計画作成担当者が事前に家族面談を行い、意見の聴取をするように改善している。計画作成担当者は、家族の意見を把握した上で、サービス担当者会議での介護職員の意見や提案を取り入れて介護計画を見直している。ちょっとした入居者の変化に対しては週ミーティングの中で検討してケア内容を適宜見直している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中や退居後の空き室を利用した短期入所事業を実施しており、入居前の体験宿泊の利用がある。医療連携体制加算を取っており、週に1日であるが、看護師が入居者の健康管理や服薬管理、必要に応じて通院の介助を行っている。また、家族の通院介助が難しい場合は、法人の移送サービスを利用することも出来るが、法人の車で職員2名の付き添いによって通院を介助してもらうことも出来る。	○	現在のところ、短期入所の利用者は入居前の体験宿泊のみであるが、居宅介護支援事業所のケアマネージャーと連携・調整が進めば、利用機会が増えることが期待できる。

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はかかりつけ医又は協力病院で受診しており、家族による通院介助が難しい場合、ホームの職員が通院を支援している。通院時にはホームが書式を作成した「通院シート」を利用している。シートにはホームから医療機関に伝えたい入居者の情報を記入する欄と家族又は通院を介助した職員が診療結果を記入する欄が設けられており、ホームと家族、医療機関が情報を相互に共有出来るようになっている。また、年1回、CTスキャンやMRI装置の整った協力病院で希望者が健康診断を受けており、健康状態の把握には力を入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	9つの居室のうち7室が2階にあり、階段昇降機は設置されているもののエレベーターがないために生活上の制限が出来てしまう。重度化が進み階上で生活できなくなった入居者が特養に転居しなければならない例があった。また、看護師の常駐や医師の往診についての体制が整っておらず、重度化したり終末期にさしかかった場合には、現在のところホームでは対応できないとしており、職員も共通の認識をもっている。	○	重要事項説明書には「看取りの指針」を掲載しており、ホームがターミナルケアを実施しているように読み取れる。家族が誤解しないかを検討し、実情に即した記載方法に改めることが望ましい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声かけなどは耳元でささやくようにしているが、だんだんと耳が聞こえづらくなっているために大きな声で伝えるようになっている。失禁の始末などは、他の人に知られないよう、居室やトイレで速やかに対応するようにしている。また、事務室は扉を開け放しているので出入り自由であるが、他の人の記録が見えないように気をつけている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容（すでに取組んでいることも含む）
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きられない入居者を無理に起こすのではなく、起きるまで待って、事務室などで朝食を摂ってもらうようにしている例がある。クラブ活動なども参加したい人が参加したいクラブに参加するようにしている。また、近くの駄菓子屋に買い物に行くことを楽しみにしている入居者もいる。リビングの一角にある畳スペースの炬燵に入り、テレビを楽しんだり、テレビニュースの内容を話し合ったりする姿も見られる。昼食後、事務室で職員とおしゃべりしている入居者もいて、自由な雰囲気があった。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は主菜を隣接する同法人のケアハウスの厨房で作っているが、副菜とご飯、汁はホームの台所で入居者の手を借りながら作っている。食卓の清拭や配膳、片付けなどに率先して参加する入居者が数名いる。月に1度は、すべての調理をホームで行う食事イベントやおやつづくりを実施し、普段は食事の用意に参加できない入居者も力を発揮出来るような機会を設けて、楽しんでもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態の把握のためにも、入浴はほぼ毎日実施している。希望の時間に応じられるようにはしているが、むしろ入居者が「お風呂を沸かしたのなら、次々に入った方が節約できて良い」と言って、入居者同士が一緒に入って時間を短くする気遣いを示してくれたりする。一般の個浴での入浴が困難な場合は、隣のデイサービスの機械浴を利用してゆっくりお湯につかることが出来るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	隣接するケアハウスと合同のクラブ活動（押し花絵、書道、生け花、菜園、カラオケなど）があり、入居者は好きなクラブに参加している。家事に参加する入居者もおり、食事の支度・片付け、来客へのお茶出し、洗濯物・洗濯物たたみ、繕い物などに力を発揮している。月に1度は全員でドライブに行き、花見や紅葉見学、外食を楽しんでいる。クリスマスなどの行事や誕生会もあり、その様子を写真にとって、ホーム新聞に掲載し、家族に知らせている。	○	行事や外出イベントは、計画と事後の報告がまとめられており、職員による実施後の総括や反省の記述もあって、よい取り組みである。ホーム新聞も写真がふんだんに使用されており、様子がよく分かるようになっている。今後も継続していただきたい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよいときには散歩に出かけたり、希望に応じて近所の駄菓子屋に出かけている。また、隣のケアハウスには洋服の出張販売所があって、展示している服を見たり買いに行くことを楽しみにしている入居者もいる。日常の食材はケアハウスの厨房が一括して購入し、ホームの入居者が買いに行くことはないが、一緒に調理する機会である月1回の食事イベントの時には、近くの野菜直売所に食材を買いに行っている。よもぎ餅を作るためによもぎを摘みに行くことも春の楽しみな習わしとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていない。職員が見守っているが、知らないうちに隣のケアハウスの方へ行っていることもある。ケアハウスやデイサービスの職員は心得ていて連絡をしてくれる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する同法人のケアハウスと合同で、緊急時対応のマニュアルを整備し、消防署の協力を得ながら、火元がケアハウスの場合、グループホームの場合などを想定した避難訓練を実施している。数年前にケアハウスで火災が発生したことから、火災を機に出火原因となる喫煙を禁止する措置を採った。運営推進会議などを通して、地域に協力を呼びかけているが、まわりは田畑であり、近隣住民の協力は実際上は難しい。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はケアハウスに入っている給食業者の栄養士が立てている。3回の食事の摂取量と時間ごとの水分の摂取状態をチェック表に記録して、十分に摂れているかを把握している。食事の際は、なるべく自分で食べることを目標に、必要なときにだけ職員が介助や声かけをして食事を促している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階建ての四角い外見を補うために、屋内には押し花絵や手芸作品を飾って、親しみやすい空間づくりを心がけている。沢山の紙風船を天井からぶら下げたり、入居者が子どもの頃に遊んだであろうメンコや独楽、凧といった品を壁飾りに取り入れている。リビングには耳障りにならない程度の音量で童謡や唱歌のテープを流して、入居者の懐かしい気持ちを誘っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が備え付けられ、ベッドや希望する場合は寝具がホームから提供されている。入居者はそれぞれ好みの家具や仏壇などを持ち込み、クラブ活動で作成した押し花絵や書道作品、家族の写真などを飾っている。各部屋は入居者に選んでもらった好きな香りの芳香剤（ラベンダーの香りなど）を置いて、心地よく過ごせるようにしている。また、入居者によっては職員に手伝ってもらいながら居室の模様替えをして、気分転換を図ることもある。		